

令和5年度 入学式告辞

九州工業大学 学長 三谷 康範



ております。

本学は、1909年に開学した私

立明治専門学校を前身としています。

この学校は、飯塚キャンパスがある

筑豊において石炭ビジネスを起こし、

戸畑キャンパスと若松キャンパスが

ある北九州市に本社を持つ安川電機

など、数々の関連企業の設立に関

わった安川敬一郎氏の私的な投資に

よって、日本を支える技術者養成の

ために設立されました。1901年

に東田第1高炉の操業が開始され、

当時、国の産業政策の最上位に位置

付けられた官営八幡製鐵所の関連技

術を支えました。このような背景で

設立された明治専門学校では、開学

時に、建学の精神である「技術に堪

能なる士君子」の養成という理念が

掲げられました。「士君子」とは、

学問、人格ともにすぐれた立派な人

を表しますが、技術に精通した知性

と教養が溢れるエンジニアの養成と

新技術の創出を念頭に教育を行い、

後に私立から官立、そして国立九州

工業大学へと移行する中で建学の精

神を脈々と引き継いで、教育、研究

社会貢献の内容を充実させてまいり

ました。これまでに輩出された7万人を超える卒業生は、日本はもとより世界を舞台に活躍しております。

さて、明治専門学校開校にあたり

初代総長としてお迎えした山川健次

郎先生は、幕末から明治維新を白虎

隊の一員として激動の会津の地で過

ごされました。九死に一生を得て、

戦乱終了後は、志し新たに理学の道

に進まれ、米留学の機会を得て、

苦学の後に日本人初の理学博士号を

取得されています。米留学が山川

先生の人生の航路に大きな影響を与

えたことは疑いの余地がありません。

このように食欲以外の世界を知ろう

とすることは、人格形成に欠かせな

い機会であります。本学ではコロナ

禍前までは年間延べ700名以上の学生

が海外渡航経験をっていました。こ

の3年間、海外渡航が制限される中、

遠隔会議システムが発展し、学生の

みなさんは日本に居ながら海外と繋

がり、交流の機会を得てきました。

そしてコロナ禍が未だ落ち着かない

中でも、海外で学びたいとの意欲を

持つて何人かの学生が勇気を持って

日本を飛び出し、海外に長期滞在し

令和5年度入学式告辞

新入生の皆さん、また、ご家族・

ご親族の皆様、ご入学おめでとうご

ざいます。春爛漫の今日、九州工業

大学に皆さんを迎えることができました

したことは、教職員並びに在学生一

同、そして本学に関わる多くの人々

にとつてこの上ない喜びであります。

新入生の皆さんはもちろん、新入生

の皆さんを支えてこられたご家族・

ご親族の皆様も、たいへんお喜びの

ことと存じます。本日は、九州工業

大学を代表して、私からお祝いの言

葉を申し述べさせていただきます。

この3年間、新型コロナウイルス

感染症に日常が翻弄され続けてきま

んにおかれましてはこの3年間、

様々な苦労を経験されたと思います。

改めて、この日を迎えられました皆

さんのご努力に敬意を表します。こ

の間、遠隔授業の仕組みが発達し、

離れた場所からでも学びを継続でき

る環境も整いましたが、これから皆

さんが過ごすこの九州工業大学は、

秀でた技術力を持つユニークな企業

が数多くある地域に立地し、デジタ

ルトランスフォーメーションやグ

リーントランスフォーメーションを

標榜する多くの企業が集積し、それ

を支える自治体の活動も充実してい

ます。地理的・歴史的にも恵まれた

環境にあり、これからこの地で学ぶ

ことの意義を分かち合えればと考え

て貴重な体験をしてくれました。百聞は一見に如かずで、実際に行くところに行かないでは雲泥の差です。先駆者となる彼らの行動に触発されて徐々に海外でのリアルな活動が増えてきていることは、我々教職員にも大いなる勇気を与えてくれました。新入生の皆さんも是非色々なことに挑戦してください。本学では多種多様な挑戦の機会を用意して皆さんをお待ちしております。

現在、「未来の技術に出会うキャンパス」を目指して、キャンパス内に相互作用を作り出す学修や交流の空間、5Gの次の世代の通信技術であるBeyond 5Gに関する国のプロジェクトのテスト環境、多様性あふれる人々が集まって共に創る場所という意味の共創空間など様々な仕掛けを順次構築して皆さんをお待ちしています。共創空間は、普段は接しない教員や、企業の方々、留学生とも交流できる新しい出会いの場となっています。こうした多くの仕掛けによって、キャンパス内には学生や教員だけでなく、企業人やスタートアップを興そうとする熱気あふれる

人々が集い、その中から皆さんが自らの将来を想像するためのロールモデルを見つけ出すこともできるようになります。

分野が異なる技術と人の出会いがイノベーションを創出します。課題は技術を進歩させ、技術の進歩はまた新たな課題を生じさせます。一方で、日本の産業は技術力では勝るもののビジネス展開力において世界の国々の後塵を拝しています。海外に行くと感じるのが、学生を含めた若い世代が積極的にビジネスモデルの構築に関わり意欲的に活動しており、その勢いが旋風となって産業界を活性化かせているということです。皆さんが、多くの方々と交流し、柔軟な発想のもとで今はまだない技術や方法を生み出し、それらを解決していくことが重要になります。多様な考え方を認め合い、知恵を出し合って、技術の裏に潜むリスクを見極め、リスクを克服した社会的価値を生み出す課題解決に貢献することができるよう、学生時代に学び、考え、多くの事を試みてください。九州工業大学ではこうした環境づくりに特

に力を入れ、皆さんをお待ちしております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症は未だその感染リスクを残しています。しかしながら、実社会でゼロリスクはあり得ませんが、様々な制約がある中ではあります。入学された皆さんが、社会生活の中でリスクを上手にコントロールし、かけがえのない日々の暮らしや人命の尊さについて考え、自らの健康に十分留意され、生活と学びを楽しみ、意義ある大学生活もしくは大学院生活を過ごされますことを心から希望し、告辞いたします。本日は誠にありがとうございます。